３年社会科　公民　年間指導計画 （１０３時間） 2024 年

学期	時限	学習内容・学習活動
公民の学習を始めるにあたって		
一学期	1	地理や歴史の学習で学んできたことをもとに、近年になって私たちの暮らしや考え方に生じてきた、様々な影響について気づく。
第 1 章　私たちの暮らしと現代社会（ICT）		
1 節　私たちが生きる現代社会		
一学期	2	グローバル化という視点から，身近な暮らしと世界とのつながりについて，具体的な事例を通して理解する。グローバル化によって新たに生まれてきた課題や，今後の暮らしへの影響に気づく。
	3	急速に進化する情報社会の特徴を理解し，情報との接し方や活用の仕方を考える。情報社会において，自分たちが情報を伝え合うことや世界とつながることの意味に気づく。
	4	社会の変化を背景とする，少子化や高齢化，核家族化といった家族や家庭のあり方の変化について理解する。少子高齢社会の課題に気づき，国や地域の対策と，自分たちができることを考える。
2 節　現代につながる伝統と文化		
一学期	5	科学技術の発展がもたらした社会の変化や，私たちの身近な暮らしへの影響について理解する。日本人の宗教観と宗教のもつ意味や，芸術の果たす役割について考える。
	6	日常生活の中から日本の伝統文化を見いだし，身近な暮らしの中でどのような役割を果たしているかを理解する。異文化交流を積極的に行うことの意義について考える。
	7	過去から受け継がれ，身近な場所に息づいている伝統や文化について理解し，未来へ継承していくことの意味について考える。
3 節　私たちがつくるこれからの社会		
一学期	8	人間は，誰もが社会集団の中で生きる社会的存在であることに気づき，人々の間のさまざまな対立の存在と，それを解決し合意を目ざしていくことの意義に気づく。ルールやきまりに込められた意味を理解し，契約とその中にある責任と義務などの重要性について考える。
	9	話し合いを通じて具体的なルールやしくみをつくっていく際，効率と公正という考え方が必要になることを理解する。 効率と公正の観点で他者との合意を形成する努力を積み重ねながら，対立から合意を得ていくことができることに気づく。
	10	「ごみ収集所の新たな設置」を例に，人々の対立を調整し合意にいたるルール作りのあり方について考える。 実際に話し合いを行うことを通して，対立する意見を調整しながら合意を得ることの意義を理解する。
	11	「ごみ収集所の新たな設置」を例に，話し合いによって自分たち自身がルールをつくり，守っていくことの大切さに気づく。 対立と合意をさらに繰り返しながら，ルールを見直し，よりよいルールをつくっていくことができることに気づく。
第 2 章　個人を尊重する日本国憲法（ICT）		
二学期	12	日本国憲法は最高法規であり、それに基づいて人々の権利を守るための法が定められており、法によって統治されている「法治国家」のあり方とはどのようなものか、どのようにあるべきかを想起させる。
1 節　日本国憲法の成り立ちと国民主権		
二学期	13	人権思想の歴史や特色を整理し，人権の保障が必要となった背景について考えを深める。大日本帝国憲法制定の背景や，内容の特徴について理解する。
	14	立憲主義や法の支配などの考え方を理解し，憲法がもつ役割や意義に気づく。日本国憲法の成立過程とその意義について，大日本帝国憲法との比較を通して理解を深め，憲法の三つの基本原理を理解する。
	15	将来の日本を担う主権者の一人として，国民主権の意義やその実現について考える。象徴天皇制の意義や特徴について理解し，国民主権の原理について理解を深める。

2 節　憲法が保障する基本的人権		
二学期	16	生命の大切さとともに，すべての人権の根源には個人の尊重という考え方があることを理解する。誰もがかけがえのない存在であるためには，法の下の平等という考え方が大切であることに気づく。
	17	具体的な事例を通じて差別の実態に気づき，自らの生活と結びつけて差別の問題について考える。いまだ存在するさまざまな差別を許すことなく，解消に向けて主体的に考え，取り組んでいこうとする態度を身につける。
	18	個人として尊重されることの意味を理解し，さまざまな違いをもった人々が活躍できる社会の実現の大切さを理解する。 女性や障がいのある人などへの差別や偏見が人権侵害であることを理解し，自らの意識や行動を変化させる態度を養う。
	19	識字運動やハンセン病問題，LGBT への取り組みに関する具体的な事例を読み解くことを通じて，人権保障の大切さについてさらに深く考える。
	20	自由権の考え方や意義について，身近な生活との関わりから理解する。日本国憲法の条文から，精神活動の自由についての内容を具体的に読み取り，理解を深める。
	21	憲法で保障された身体の自由について，憲法の条文や具体例を通して理解を深める。憲法で保障された経済活動の自由について，憲法の条文や具体例を通して，その意義や目的を考える。
	22	社会権の意義について，自由権や平等権の保障との関連で考えるとともに，社会権の考え方が生まれた背景を理解する。 社会権の最も基本となる生存権の保障と，それに基づく制度について理解を深め，その意義を考える。
	23	社会権において，教育を受ける権利が保障されていることについて理解し，その意義を考える。労働者を守る権利が保障されるようになった歴史的背景や，法の整備を含めた政府の取り組みについて理解する。
	24	参政権の内容と意義を具体的な事例を通じて理解し，国民が政治や裁判に積極的に参加し，監視することの重要性に気づく。人権の救済を求める権利が保障されていることや，人権の救済のために多くの人が関わり，社会全体で人権を守るしくみづくりが進んでいることを理解する。
	25	自由と権利を守るために，国民一人一人が個々の責任や義務を果たすことの重要性について考える。権利の濫用の問題や公共の福祉の意味を考え，相互の尊重や合意を図る態度の大切さに気づき，自らの態度や行動に具現化する。
	26	新しい人権の根拠や内容について，その背景となる社会の変化と関連付けて考えるとともに，さまざまな取り組みについて理解する。新しい人権について，立場による考え方の違いや高まる個人の責任などに着目し，人権の問題を公正に判断する態度を養う。
	27～28	「『忘れられる権利』を日本でも認めるべきか」を論題にディベートを行うことを通して、それぞれの立場や考え方の違いを理解したうえで、自分の考えをもつように養う。
	29	世界に広がる人権問題と，それに対する取り組みについて理解し，国際的な理解と協力の必要性が高まっていることに気づく。日本と世界の人権をめぐる課題の比較などを通して，今後果たすべき日本の役割や自分たちにできることを考える。
3 節　私たちと平和主義		
二学期	30	平和主義という考え方が生まれた背景に気づき，平和主義という考え方のもつ意義を考える。日本のこれまでの平和主義の歩みや，安全と防衛の問題について，自衛隊と文民統制の視点などから理解する。
	31	日本の安全保障の現状と，国際社会の平和に対する日本の貢献のあり方について理解を深める。日本国憲法における平和主義の立場をふまえながら，これからの社会の平和の構築について考える。
	32	我が国の平和主義のこれまでの歩みと現状を理解したうえで，未来の平和のために具体的な活動に取り組んでいる人たちの姿から，国際社会における平和の構築について考える態度を養う。
第 3 章　私たちの暮らしと民主政治（ICT）		
二学期	33	私たち住民の暮らしをよりよいものにする政策の方針が決められ、どのように実行されていくのか、身近な地域の地方自治の動画を鑑賞し、そこで討議される内容や話し合いの現場を直接感じることで、政治を「自分事」としてとらえる態度を養う。
1 節　民主政治と日本の政治		
二学期	34	民主主義の意義とともに，議会制民主主義（代議制）のしくみについて理解する。多数決の原理と少数意見のあり方について理解し，民主主義と権力との関係について考える。

	35	選挙の意義としくみについて理解し，選挙が果たす役割について考える。日本の選挙制度の特徴について理解する。
	36	18 歳選挙権が実現した背景とその意義について理解し，民主的な選挙権の行使について考える。投票率の低下や一票の価値の地域による格差など，選挙をめぐるさまざまな課題について考える。
	37	政党がもつ意義や，政党の働きについて理解する。政党と国民との関わりや，政党による政治運営などの観点から，政党政治の役割について考える。
	38	世論と，それを形成するマスメディアの機能を理解し，民主政治との関わりを考える。新聞記事などの具体例を通して，マスメディアが国民に果たす役割について理解する。
	39～40	メディアリテラシーの考え方がもつ意義について理解する。さまざまな情報を活用する際の留意点や課題について、具体例をもとに考える。
2 節　三権分立のしくみと私たちの政治参加		
二学期	41	憲法で定められた国会の地位と，国会の種類やしくみについて理解する。二院制がとられている意味と，「衆議院の優越」がもつ意義について考える。
	42	法律の制定を中心とした国会のさまざまな仕事や，国会での審議のしくみを理解する。国会議員の具体的な活動や仕事を通して，議員が国会で果たす役割について理解を深める。
	43	首相や国務大臣の仕事や各行政機関，公務員の仕事から，内閣が果たす役割を具体的に理解する。我が国の議院内閣制のしくみとその意義について，アメリカの大統領制との比較を通して理解を深める。
	44	自分たちの暮らしと関わる行政が，どのような課題を抱え，改革を進めてきたかを理解する。これからの行政のあり方と，行政における効率と公正について，具体的に考える。
	45	裁判のはたらきと裁判所の種類について理解し，司法権の独立の意義に気づく。三審制など人権を守るために確立したしくみを理解し，慎重な裁判を確保することの意義について考える。
	46	民事裁判と刑事裁判のしくみや特徴を，互いの裁判との比較から具体的に理解する。裁判官，検察官，弁護士といった裁判に関わる人々の役割について理解し，被疑者・被告人の権利とその課題を考える。
	47	裁判員制度のしくみと，制度が導入された意義について理解し，長所や短所について考える。司法制度改革の課題と，これからの司法制度のあり方について考える。
	48～49	事例をもとに、自分が裁判員裁判に参加したとして判決を考える活動を通し、裁判の意義ついて理解する。、裁判に関わる人々の役割を理解し、その重要性に気づく。
	50	三権分立のしくみに基づく司法権の独立の意義を理解し，違憲立法審査権の意義について考える。三権の相互の抑制について考え，三権分立のしくみが権力の濫用を防ぎ，国民の自由を保障しようとしていることに気づく。
3 節　地方自治と住民の参加		
二学期	51	地域が抱える課題に気づき，住民参加による地方自治の大切さを理解する。「民主主義の学校」ともよばれる地方自治のしくみについて，国政との比較などを通して理解し，地方分権の意義について考える。
	52	地方自治体の仕事とそのしくみについて，具体例を通して理解を深める。各地でのさまざまな住民投票の実施や，特色ある条例の作成などから，住民がもつ権利とその意義について理解する。
	53	地方財政の現状を理解し，地方における財源の確保の重要性に気づく。近年の地方財政が抱える課題を理解し，将来の地域社会のあり方とそこで果たす地方財政の役割について考える。
	54	地域の自立に関わる取り組みと，その課題について理解し，行政との協働も含めた今後の新たな取り組みについて考える。外国人の住民との共生など，世界に開かれた地域社会のあり方について考え，理解を深める。
	55～56	身近な地域の現状や抱えている課題について調べ、その解決策を考える。地域の政治に対して、自分たちにできる活動を考える。
第 4 章　私たちの暮らしと経済（ICT）		
	57	すでに学習した「対立と合意」、「効率と公正」の見方・考え方も活用しつつ、給食の事例を中心に、これから学ぶ経済単元の様々な学習をどのように見たり考えたりしたらよいか気づく。

1 節　消費生活と経済活動		
二学期	58	家計の果たす役割を，財やサービスの供給と，消費や貯蓄との関わりから理解する。支払いにはさまざまな手段があることをふまえながら，消費の内容を正しく選択することの意義について考える。
	59	経済活動における信用の大切さに気づき，消費者の安全や権利を守るために，法律や制度が定められていることを理解する。消費者問題に取り組むさまざまな消費者行政が進められていることを理解し，消費者の自立における契約の意味を考える。
	60	流通のしくみを理解し，自分たちの生活と流通との関わりに気づく。流通機構の変化と発展における長所と短所をとらえ，将来の自分たちの生活への影響について考える。
2 節　企業の生産のしくみと労働		
二学期	61	企業という経済主体の果たす役割を，生産のしくみや生産要素を通して理解する。資本主義経済のしくみとその特徴について理解する。
	62	私企業や公企業を中心とする日本のさまざまな企業の種類と，それぞれの特徴を理解する。規模からみた企業の違いやそれぞれの特色を理解し，日本経済の現状や今後の課題について考える。
	63	私企業における会社企業の中で，最も多く存在する株式会社のしくみと特徴について理解する。株式会社に関する会計情報や，企業の社会的責任（CSR）についての情報を知ることの意味を考える。
	64	労働環境の変化に伴って，深刻化するさまざまな課題をとらえる。非正規社員の人たちや外国人労働者，女性が抱える労働問題をふまえ，安心して働くことができる社会のあり方について考える。
	66～67	地域のニーズをとらえた事業を，クラウドファウンディングの手法などを用いた起業計画として立案し，発表することの意義に気づく。起業することがもつ意義へのより深い理解と，プレゼンテーション能力を身につける。
3 節　市場のしくみとはたらき		
二学期	68	市場における財やサービスの価格の決まり方について，身近な生活の中から具体的に考える。需要と供給と価格の関係について考え，市場経済のしくみと特性を理解する。
	69	主な価格の種類をふまえながら，競争の役割を通して，市場が機能するために必要な条件を考える。財やサービスの種類によっては，市場に適さないものがある理由を考える。
4 節　金融のしくみと財政の役割		
三学期	70	金融機関の種類や役割を理解するとともに，銀行のしくみについての理解を深める。銀行のさまざまな仕事と目的をふまえながら，日本銀行と一般の銀行との違いを理解する。
	71	間接金融と直接金融のそれぞれのしくみや特徴と，違いをとらえる。株式市場のはたらきや役割を理解し，投資が本来もつ意味と市場への影響について考える。
	72	第三の経済主体として，政府の経済活動を表す財政のしくみを理解し，経済の三主体についての理解を深める。資源配分，所得の再分配，経済の安定化という財政の三つの役割を，具体的にとらえる。
	74	税金の種類とそれぞれの特徴について，身近な暮らしの中から具体的に理解する。租税には効率性と公平性の問題があることに気づき，納税の意義について考える。
	75	政府の収入（財源）と支出の内容や，特徴について理解する。財政赤字など政府が抱える課題とその取り組みについて理解し，今後の財政のあり方を考える。
	76	経済の成長と安定のしくみや，自分たちの生活との関連を理解する。経済の安定のために，政府や日本銀行が行う経済政策について理解し，どのように行われるべきかを考える。
第 5 章　私たちの暮らしと経済（ICT）		
1 節　暮らしを支える社会保障		
三学期	77	義務教育の最終段階において、今までどのくらいのお金が使われてきたのか、そのお金はどこからきているのかを知ることによって、税金によって支えられている社会や、社会保障制度の大切さに気付く。

三学期	78	社会保障制度の意義と，暮らしの中で果たす役割について具体的に理解する。高齢化の観点から，現在の日本の社会保障制度が抱える課題を考える。
	79	日本の社会保障制度の目的と，そのしくみや特徴を理解する。社会保障制度の中でも特に社会保険と，生活保護の制度がもつ役割について理解を深める。
	80	進む少子高齢化の中で，社会保障制度が抱える課題を具体的に理解する。介護保険や年金保険などの給付と負担の関係について理解し，これからの社会保障制度を支えていくために必要なことを考える。
	81	社会資本について具体的に理解し，高齢者や障がいのある人への設備の充実のために，どのような考え方が大切なのかを理解する。身近な地域社会にはどのような課題があり，どのような取り組みが必要かを考える。
	82～83	これまで学習してきた内容の中から、テーマを決めてレポートを作成させる活動を通して、身近な地域社会の課題に対する理解を深め、レポート作成能力を育成する。
2 節　これからの日本経済の課題		
三学期	84	公害問題への理解を通して，環境保全への取り組みが進められてきたこれまでの歴史や，現状をとらえる。排出ごみの問題解決や，企業・行政・市民による協働が循環型社会の実現のために求められていることを理解し，環境問題へ積極的に取り組むことの重要性に気づく。
	85	経済におけるグローバル化の進展によって，国際社会では何が起こり，その結果日本にはどのような影響があったかを理解する。グローバル化する国際社会の中で，日本経済が抱える課題とその解決について考えを深める。
	86	日本の「ものづくり」の特徴や課題，地域による格差の解消に向けた取り組みなど，日本経済の現状をとらえる。 さまざまな地域の新しい試みの成果や課題をとらえ，これからの日本経済のあり方を考える。
	87	貿易のもつ利点、過去の日本の貿易のあり方や状況、為替レートのしくみなどを理解しながら、貿易の意義と、国際社会における日本経済の課題について考えを深める。
第 6 章　国際社会に生きる私たち（ICT）		
第 1 節　国際社会の平和を目ざして		
三学期	89	主権国家を基本単位として構成される国際社会の特色や，どの主権国家にもある国旗と国歌の意義と役割を理解する。 国際社会の平和と秩序を維持していくために，国際法が果たしている役割と課題について考えを深める。
	90	国家の主権が及ぶ範囲について理解する。日本の領土をめぐる課題をとらえるとともに，国際社会の平和と秩序を維持していくために大切なことは何かを考える。
	91	国際連合が成立した経緯としくみ，そのはたらきを理解し，国際機構の果たす役割の大切さに気づく。平和維持活動（PKO）やさまざまな専門機関など，世界の平和や人々の暮らしの向上に努める国連の活動を理解する。
	92	EU，ASEAN，APEC などを例に，国際社会における地域統合についての理解を深め，日本との関わりについて考える。日本が結んでいる経済連携協定について調べ，その効果や日本への影響を考える。
	93	アジアを中心とした日本の国際貢献について，技術協力や経済援助の視点からとらえ，今後も他国から期待される活動のあり方を考える。NGO による国際支援活動の具体例を通して，民間でもできる国際支援の方法や特徴について考える。
	94	核をとりまく国際社会の現状と，核軍縮の動きや課題をとらえる。平和主義を貫くという視点から，我が国が国際社会で果たせる役割や，今後も期待される活動を考える。
2 節　国際社会が抱える課題と私たち		
三学期	95	世界の地域紛争の現状を理解し，紛争が長引く原因や解決を妨げる課題について考える。難民問題など紛争が及ぼす未解決の課題について，その原因を理解し，解決策について考える。
	96	世界のさまざまな文化や宗教が，人々に与える影響について理解を深める。多様性を受け入れることが，社会にとってどのような意味をもつのかについて考える。
	96	「人間の安全保障」という考え方の広がりに着目し，こうした考え方が注目されるようになった背景に気づく。グローバル化が進む国際社会という広い視野から，南北問題や南南問題などの国家間の格差の現状と課題について考える。

	97	「人間の安全保障」という視点から，食糧と水の不足を中心に，世界が抱える深刻な問題の原因や背景について考える。 水資源をめぐって起こっている世界の動きに気づき，自分たちの生活への影響やこれからの世界のあり方を考える。
	98	国際社会において，弱い立場に置かれやすい子どもや女性が，深刻な問題を多く抱えている現状とその背景に気づく。 弱い立場にある人々の人権が尊重される社会を築いていくことが，これからの社会にとって重要であることを理解する。
	99	限りある資源と新しいエネルギーに関して，それぞれの現状と今後の課題を理解する。原子力発電所の事故をふまえ，資源やエネルギーを安全で持続可能な手段によって利用していく方法について，自分たちの暮らしと関わらせて考える。
	100	地球温暖化をはじめとする，さまざまな地球環境問題の原因と現状に気づき，これまでの国際的な動きを整理してまとめることができる。地球温暖化とその影響について理解するとともに，国によって地球環境問題への取り組みには立場や考え方の違いがあり，対話と調整を続けることが大切であることを理解する。
終章　私たちが未来の社会を築く（ICT）		
1 節　持続可能な未来の社会へ		
三学期	101	学んできた SDGs を視点に，さまざまな課題と自分なりに向き合いながら，課題解決のための答えを探していくことの大切さに気づく。これまでの学習の集大成として，持続可能な未来に向けた作品・私の提案「自分を変える，社会を変える」を作成する準備を行う。
	102	資料収集や表現方法の選択，テーマを追究する手順を具体的に考える。追究する個人テーマと，持続可能性を妨げる課題との関わりについて理解し，SDGsをつなげながら，手順にそって作成する。
	103	完成した「自分を変える，社会を変える」を相互に発表し合い，インタビュー形式の他者との対話を通してさらに改善を考える。 卒業後も，「ともに生きる社会」の実現に向けて，「自分を変える，社会を変える」を生かして行動し続けていくことの大切さに気づく。